

〇みんなで「玉入れシュートゲーム」 【新種目】

わたしたちの「スポコン広場」アイデア募集における最優秀賞「豊前市立横武小学校」の作品

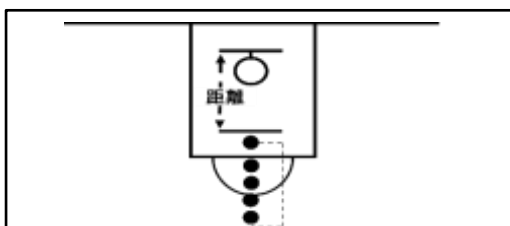
(1)ゲームの概要



投球ラインより後ろから一人ずつバスケットゴールに向かってシュートし、3分間（一定時間内）に何回ゴールに入ったかを競うゲーム。

(2)場づくりと用具

①コート



- ・投球ラインからボードまでの距離は、学年に応じて以下のように定める。
 - 1、2年生は2 m
 - 3～6年生は3 m
- ※特別支援学校及び特別支援学級は2 m以上の距離とする。

②用具

- ・ドッジボールを1人1個
(低学年は1号球 中学年は2号球 高学年は2又は3号球)
(ライトドッジの場合は、低学年1号球、中学年、高学年は2号球)
- ・ストップウォッチを各グループに1個

(3)グループ編成

- ①1グループの人数は、5人以上とする。
(例：○→1学級26人で1グループ ×→1学級26人=①2人 ②4人 ③20人)
- ②1グループの人数は、原則として学級の人数が均等に分かれるようにする。
(例：○→1学級26人=①5人 ②5人 ③5人 ④5人 ⑤6人)

(4)ゲームの進行

- ①ゲームへの挑戦時間は3分間とする。
- ②3分間にゴールに入った回数を得点とする。
- ③1つのグループが縦一列に並ぶ。(左上図参照)
- ④先頭の児童がボールをもって投球ラインで準備し、計時係の笛の合図でシュートを始め、計時係の笛の合図で終了する。
- ⑤1回シュートした児童は、そのボールを取りに行き、自分の列の最後尾に並び直し、繰り返しゲームに参加する。

(5)記録及び登録

- ①グループでゴールに入った回数をグループの記録とする。
- ②複数グループで実施した場合は、参加したグループの平均回数を学級の記録とする。
ただし、学級のグループが1グループであった場合は、そのまま1グループの回数を学級の記録とし、登録する。
- ③学級の平均値を算出する際は、1/100の位まで計算し、1/100の位を四捨五入して、1/10の位までとする。

(6)実施上の留意点

- ①投げ方は自由とする。(例：下から、上から、両手投げ、片手投げ)
- ②2人以上が同時に投げてはならない。(その場合は、記録なしでやり直しとする)
- ③片足あるいは両足が投球ラインを踏んだり、越えたりしてはならない。(投球後はよい)
- ③記録挑戦(公認)の際は、教師立ち会いのもとで実施し、計時・計測も教師が行う。
- ④実施前には十分に準備運動を行う。